麁畫便覧
上

序

むかし　大泊瀬の御時堅貴乃畫部
因斯羅我と國史にしるされしより
扨又常則弘高の名家は物語に見え傳はりて
その後は源語をはじめ以来乃世々に至るまでも
わけて文亀永正よりこのかた以来名人畫
工あまたありてこの道に精しく筆法ことに
まさしくうつしまなぶ族ある人も稀にてかく
いにしへよりせんしよ里八様ましてむかしまし残

おなしく手する人乃発せしと以然あるによりて
此はミつから独紀筆ならねと一への君
何ちかくく乃者志紀談残露ミへすミやし
おほて伝書者五号筆の後まてこち置う姓まん八
いの乃ぬ也に里あらんと云ふりのうら書綱ま
ありさひて写ひ出すもの三品なりあて粗
画便覧と以けん人かも

宝暦辛巳如冬春下旬人筆並龍仙居士
ふ呈ね

麤畫便覧上巻目録

法眼元信

元信筆
元信

髮髭白
面濃朱
衣淡朱
朱
白

啓書記筆

古法眼筆僧正坊圖評

此に画所ハ山中の魔魅僧正の像也或日元信か夢に
きん来て天狗の形を写させんことを求むと元信いまだ
天狗といふ物ハ世に図像なしとならせんとかと思ふ且其
頃愛宕山に老翁来て天狗ありとてゑかきてと云ひて元信
見られんあらましと去りて後是を写して六三錄の紙上に
像を所ての家に送る家より下りて鞍馬寺
に皆納ふとて前日の夢にも同じ所と同じ此図
天井でせられたる額なるに就きは元信しよし
奇なかりし事にて未だ修行者右に伴ふ
安像を補筆して是を写して元信ありしをも
有る事多し今はありしにとかさんと

啓書記

永徳筆

永德

相阿弥筆

真相筆

雪村筆
探幽筆

雪村

継雪村畫之

東周
陳耕
周耕筆
東周
陳耕

周耕
扶桑周耕
周耕
扶桑周耕

山田道安印

道安筆